

# 第11回 地球環境を考える自治体サミット in 大崎

11月11日（水）から12日（木）にかけて、『地球環境を考える自治体サミット』が開催されました。北海道や茨城県など全国12市町村の首長らが『混ぜればゴミ、分ければ資源』をテーマに、各自治体における取り組みや課題について議論を繰り広げました。また、『大崎町衛生自治会環境学習会』も同時開催され、サミット参加団体のほか各衛生自治会長や大崎小学校の児童らなど町内外から多くの方が来場しました。

## 地球環境を考える自治体サミットとは



▲サミット参加団体の首長ら

環境問題に積極的に取り組む自治体の首長自らが集い、他団体との交流・連携を通して、持続可能な社会の実現に寄与することを目的として、平成16年に設立されました。



▲会場の様子

地球にも家計にも優しい創意工夫に富んだ取り組みに、会場からは「なるほど。」と感心する声が聞こえました。

松田正幸さんが長年にわたる地域活動について講演されました。はじめに、地球温暖化がどのように進んでいるか気象データをもとに説明され、それに起因すると思われる異常気象や災害等を挙げながら、地球温暖化の危険性について話されました。

次に、自治会のエコ活動について話されました。この活動は、未来の子どもたちにより良い環境を受け継いでもらいたい、また、素晴らしい地域づくりがしたいという松田さんの熱い思いでスタートしました。住民が楽しみながら節水・節電した結果、二酸化炭素発生量の削減だけでなく、光熱費を支出から収入に変える無理のない暮らしにつながったということでした。

基調講演  
『地球温暖化防止は地域活動から  
〜いま、私たちにできること〜』  
鹿児島県出水市六月田下自治会 松田正幸 会長



▲住民目線で取り組むエコ活動について話す松田正幸さん

